

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	立教ゼミナール1 (Seminars for Students of Rikkyo University 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	歴史叙述としてのマンガ		
担当者名 (Instructor)	佐藤 雄基(SATO YUKI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMP2140	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	2016 年度以降 1 年次入学者対象科目 定員 30 名		

授業の目標 (Course Objectives)

歴史学の基本的な考え方・調べ方を習得し、それを用いて「歴史叙述のメディア」としてのマンガの特徴を考えるとともに、「歴史とは何か」というテーマに関して認識を深める。

Students will learn the basic approach and research methods of historiography, use them to consider the characteristics of manga as a "medium of historical narratives", and develop their understanding of the issue of "what is history?"

授業の内容 (Course Contents)

マンガは現代の日本を代表する文化のひとつである。歴史を題材としたマンガ作品は多く、学校教育と同じくらい(あるいはそれ以上に)歴史知識・歴史意識の形成に影響を与えている。ジェンダーや死生観、戦争や国民国家、歴史認識問題など、人びとのもつ価値観や世界観の変化に対応しながら、新しい歴史像を示すメディアとして、マンガの存在感は歴史をかたるとき無視できないものとなっている。

学校教育においても「歴史教育の教材」として注目され、歴史学からも「歴史(学)に興味をもってもらうための入り口」とされることが多い。だが、それらは歴史学を主として、マンガを副とするもので、「どういふ史実を利用して、どういふ歴史像を組み立てているのか」という「歴史叙述」の観点からマンガが論じられることは乏しかったように思う。その背景には、「歴史学は事実に基づく学問であり、物語とは異なる」として歴史学者の語りを特別視する考え方があった。だが、近年では、歴史学者の語りもまた「物語」という性格をもつことが指摘され、あらためて多様な歴史叙述のひとつとして再検討されるようになってきている。そうであれば、マンガについても「歴史叙述のメディア」の一つとして(授業担当者は歴史学者であるが)歴史学の立場からも議論されるべきであろう。

この授業では、歴史学の研究を参照しつつ、マンガというメディアを素材として、メディアの違いによって歴史叙述にどのようなバリエーションが生じるのか、それぞれの特徴は何かを考えたい(それによって歴史学の特徴自体も逆照射されることになるだろう)。

本授業の前半は、このテーマを扱った論文を講読し、議論をおこない、後半は幾つかのテーマに分かれて(参加人数をみてグループ分けをおこなう)、参加者には具体的な作品をとりあげて報告してもらうことにする。なお、授業担当者の専門は日本中世史であるが、必ずしも中世を題材にした作品に限定されない。

Manga is one of the most popular cultures in modern Japan. Many manga works are based on historical themes, and they have as much (or more) influence on the formation of historical knowledge and consciousness as school education. The presence of manga as a medium that shows a new image of history, responding to changes in people's values and worldviews, such as gender, views on birth and death, war, nation states, and historical disputes, has become impossible to ignore when discussing history.

In school education, manga is often seen as a "material for history education" and as a "gateway to history (or historical studies)" by historians. However, they are mainly based on historical studies, with manga as a supporting material. It seems to me that manga has not been discussed from the perspective of "historical narratives", i.e. what kind of historical facts are used to construct historical narratives. The reason for this is the idea that historians' narratives are special because "historiography is science based on facts, not fiction. In recent years, however, it has been pointed out that the narratives of historians also have the character of "narratives", and they have come to be reexamined as one of the various types of historical narratives. Therefore manga should also be discussed from the standpoint of historical studies as one of the "media of historical narration"

In this class, while referring to historiographical studies, I would like to use the medium of manga as a material to think about what kind of variations occur in historical narratives due to differences in media, and what are the characteristics of each of them (which will also backlight the characteristics of historical studies itself).

The first half of the class will be devoted to reading and discussing articles on this theme, while the second half will be divided into several thematic sections (grouped according to the number of participants), in which participants will be asked to report

on specific manga works, and report on them.

The lecturer's speciality is the history of medieval Japan, but this class is not necessarily limited to works on medieval themes.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 関連論文講読(1)
3. 関連論文講読(2)
4. 関連論文講読(3)
5. 歴史認識問題(1)
6. 歴史認識問題(2)
7. 歴史教育マンガ(1)
8. 歴史教育マンガ(2)
9. 少女マンガとジェンダー(1)
10. 少女マンガとジェンダー(2)
11. 前近代の描き方(1)
12. 前近代の描き方(2)
13. 前近代の描き方(3)
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

参加者全員に毎回課題と小レポート提出を要求する。マンガをテーマにするといっても、マンガだけ読めばよいというわけではなく、毎回関連論文を読んでディスカッションをおこない、最後は小論文を執筆してもらう。

授業参加者は歴史学専攻ではないことを前提にして、歴史学の考え方や歴史家の視点については授業担当者の側から説明を加えていく予定であるが、参加者の側からも各自の専門や興味関心に基づいて積極的に発言することを求める。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

報告内容(40%) / レポート(40%) / 参加姿勢(20%)

毎回参加が原則である。無断欠席は原則認めない。正当な理由のある場合は必ず事前に連絡すること。なお、単位修得のためには、80%以上の出席を必要とする。

テキスト (Textbooks)

必要な論文は PDF を配布するが、とりあげる具体的な作品は配布できない。報告者が自分がとりあげる作品は読み、詳しい内容紹介レポートを作成し、事前に他の参加者に配布することを要求する(報告者以外の参加者が作品を読むことは要求しない)。

どの作品を取りあげるのかは、参加者からのフィードバックを求める。ただし、たとえば以下のような作品は、社会的な影響もあり、関連論文でも言及されていることがあるので、(読んでいなければ)基本書として読んでおくとよい。

- ・歴史教育: 石ノ森章太郎『マンガ 日本の歴史』(旧版全 55 巻、中公文庫)
- ・歴史認識問題: 小林よしのりの『ゴーマニズム宣言』、中沢啓治『はだしのゲン』、こうの史代『この世界の片隅に』
- ・少女マンガとジェンダー: 大和和紀『あさきゆめみし』、山岸涼子『日出処の天子』、よしながふみ『大奥』
- ・前近代: 手塚治虫『火の鳥』、原哲夫(隆慶一郎原作)『花の慶次 一雲のかなたにー』(マンガではないが、宮崎駿監督のアニメ映画『もののけ姫』も)
- ・世界史: 池田理代子『ベルサイユのばら』(フランス革命を素材にした作品は多いので、読み比べると面白い)

参考文献 (Readings)

1. 歴史学研究会編、2017、『歴史を社会に活かす: 楽しむ・学ぶ・伝える・観る』、東京大学出版会 (ISBN:978-4-13-023073-5)
輪読論文は授業初回に PDF を配布するが、履修前に参考になるものとして、web 上で PDF 入手可能なものでは
- ①内田力「歴史の視覚化(ビジュアリゼーション)を考えるために」(『TOBIO Critiques』2号、2016年)(著者の「リサーチマップ」から PDF ダウンロード可能: <https://researchmap.jp/uchidachikara>)
- ②柳原伸洋「日本・ドイツの空襲と「ポピュラー・カルチャー」を考えるために ー『君の名は』『ガラスのうさぎ』『ドレスデン』などを例に」(『マス・コミュニケーション研究』88号、2016年)(PDF ダウンロード可能: https://doi.org/10.24460/mscom.88.0_35)
- ③松原宏之「人は「歴史する」、ゲームでもアニメでも」(『史苑』77巻2号、2017年)(PDF ダウンロード可能: <http://doi.org/10.14992/00014549>)
- ④幸村誠「漫画でつなぐ、中世北欧と現代日本」(『史苑』78巻2号、2018年)(PDF ダウンロード可能: <http://doi.org/10.14992/00016465>)

などに目を通すことをおすすめする(特に①は議論の枠組みをつかむのによい)。

参考文献としてあげた『歴史を社会に活かす: 楽しむ・学ぶ・伝える・観る』は、松方冬子「学習マンガと歴史学」などの論文を含む。

その他(HP等) (Others(e.g.HP))

